



おおたけ手すき和紙保存会会長 中本伊勢雄さん(防鹿 71歳)
コウゾの栽培から釜炊き、漂白、不純物の除去など、和紙作りの屋台骨を支える。

”わし”が
やらにやあ

伝統を紡ぐ



すき手 岡野輝則さん(黒川3 47歳)
仕事のかたわら、平成13年から和紙の手すきに取り組む。

魂込めて
すいていきます

手 すき和紙を始めたとき、かけは市の公募でした。それまで手すき和紙のことを詳しくは知りませんでした。しかし、当時は何か新しいことを始めてみたいという思いが強くなり、妻の勧めもあって応募することに決めました。平日はサラリーマンをしていいますが「何事もやると決めたら全力でやり通す」が自分のモットーです。日々懸命に和紙と向き合っています。

コ ウゾは成長しやすい植物じゃからね。肥料は要るが水はやらんでも日当たりさえ良ければ、なんぼでも育つ。じゃけど、ええ和紙にしようと思うたら、真つ直ぐに育てにやいけん。放ついたら枝分かれするけん「芽掻き」をする。これが大変なんよ。100坪ほどの畑が3箇所あって、一人で面倒みよるんよ。いろんな人に頼むけど、きつい作業で誰もおらん。1箇所

紙 すきを始めた頃はマニニアルもなく、先生のすく姿を見てやり方を学び、それを見て覚えるしか技術に身につける方法がありませんでした。また、どのようにすることが正解か分からないため、とにかくやってみて、とにかくていねいにすることを心がけていました。今でも先生のすき方を思い描きながらすいています。すいた紙は紙床に重ねていくのですが、これをきれいにそろえるにもコツが必要で、自分の中でいろいろ試行錯誤しながら方法を考えました。

和 紙はまさに生き物です。原料となるコウゾやトロ口の質、季節や朝と昼といった時間帯によって気温が変化するため、同じようにすいても同じ和紙にはなりません。そのうえ、和紙は乾燥して見ないと出来栄えが分からないため、すきながら調整することができないのです。つまり、すいている段階では、どのような出来あがりになるかは感覚に頼るほかないのです。そのため、すくときは、本当に全ての神経を集中しています。

こ れからの目標は、もっと技術を磨くことです。大竹の和紙を広めるにも、もつと質の良い和紙が作れるようになりたいと思います。大竹の和紙が欲しいと来てくださる方々の要求に二歩でも近づけるようになりたいのです。

また、学校や市と連携して子どもたちと手すき和紙の体験学習をやってみたいと思います。紙すきの体験をおこなって、子どもたちに大竹にはこんな楽しいものがあるのだと知ってもらえれば、将来、市外に出た後でもまた大竹に戻ってくるきっかけになるのではないかと思います。

1 枚の和紙をすくために、数多くの工程と、気の遠くなるような手間がかかります。その二つを保存会の皆さんが、自分の時間を割き、献身的に行ってくれています。その苦労や思いをすき手である自分が台無しにするわけにはいきません。1枚1枚、魂込めてすいています。

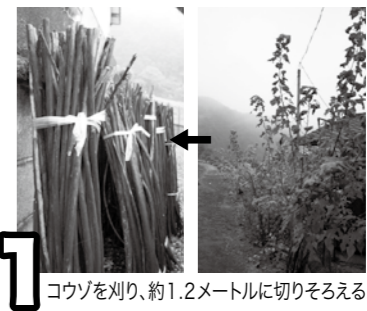
昔の人からは、弱火で二晩とかいろいろと教わったけど、言葉で聞いただけではうまくいかん。自分でやってみて、失敗して、また考えて、工夫する。試行錯誤して今は大体40〜50分ぐらい煮る。自分なりに要領をつかんできたよ。

こ こまで済んだらカルキで漂白するんじゃけど、不純物が混ざるとるけん、これを取り除かには真つ白い和紙にならんよ。機械じゃできんよ。1本1本、手作業で除去していくんよ。そりゃあ、根気が要るよ。「誰かやってくれんかの」と思うけど、仕方ない、わしがりよるんよ。まてがなばつて来たけん、すき手さんも育つとるし続けていきたいよ。でも、これ以上の需要があっても、コウゾの栽培もふくめて供給が追いつかん。

大竹の和紙が広まって、いろんなことに使ってもらいたい気持ちはあるけど、人手をどう確保していくかを真剣に考えていかんとね。周りも良う手伝ってくれるよ。けど保存会は、71歳のわしのが最年少じゃからね。あと5年はがんばろうと思うけん。

刈 り取ったコウゾは1・2mくらいに切りそろえて大釜で蒸して皮を剥ぐ。さらに黒皮を取り(そぶり)天日乾燥して保存原料の仕上がり。コウゾがやおい時しかできんけん12〜15人でやる。ここから和紙の原料づくりで、乾燥した硬いコウゾを大釜で煮て柔らかくする。薪で煮るんじゃからね。火加減だつてみやすくないよ。煮過ぎると繊維が壊れて弱い紙になるし、時間が足らんと繊維が硬くなって叩解機で上手に碎けんようになる。

手すき和紙が
できるまで



1 コウゾを刈り、約1.2メートルに切りそろえる



2 蒸す



3 皮をはぐ



4 ソブリ包丁で黒皮を取る



5 干す



6 さらし池でさらす

大竹和紙小市

お問い合わせ PiNECoNeS (UPHILL内 ☎4444)

和紙でつながる

～市制施行60周年 市民提案事業～

大竹和紙行燈

ライトアップ事業

お問い合わせ 大竹青年会議所(大竹商工会議所内 ☎8006)

とき
5月25日(日)
10時～15時

ところ
西念寺(小方2)

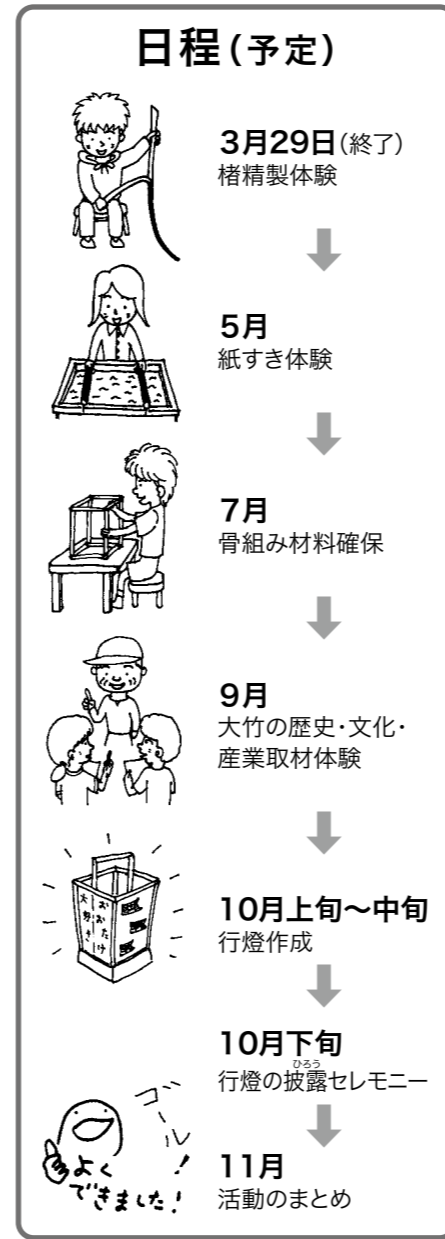
- 内容
- 和紙でつくるワークショップ
 - ・大竹和紙で風車をつくらう
 - ・和紙の花で小物づくり
 - ・大竹和紙でモビールづくり
 - ・大竹歴史散歩
 - 和紙雑貨とアクセサリ
 - 似顔絵お面
 - パンとカフェー

など

など



ワークショップ:和紙の花で小物づくり



参加者募集

子どもたちが和紙で行燈を作り、大竹の街を明るくでらします。

和紙の原料であるコウゾの皮をむく作業に始まり、自ら作った和紙を使って行燈を作り上げます。

11月までの全7回(予定)の講座で、大竹の伝統文化に触れていきます。

市民提案事業を企画された、大竹青年会議所のメンバーに事業への思いを伺いました。

私たちは「明るい豊かな社会」を目指して活動しており、その一環として「青少年の健全育成」に取り組んでいます。今回の事業は、大竹の伝統産業である「和紙」を通じて、子どもたちに「大竹」への愛着を育んでもらいたいとの思いで企画したものです。

また、子どもたち同士はもちろん、世代の異なる大人との交わりのなかで、思いやりや自立心、信頼関係を築いていきたいと考えています。

これまで「がんばるキャンパス」と称して青少年の育成に取り組んできましたが、シ



左から、日野浩爾さん(青少年育成委員会委員長)、藤澤正治さん(理事長)、田中大介さん(副理事長)

リーズで行う事業は今回が初の試みです。8カ月間の事業を通して、未来を担う子どもたちが、大竹で生まれ育ったことに誇りを持ち、たくましく成長してくれたらと願っています。

市民提案事業を企画された、パインコーンズのうち、藤井ちえさん、寺下のぞみさん、岡本博子さんにイベントへの思いを伺いました。

私たちは、平成23年秋に初めて開催した「デザインマルシェ」をきっかけとして「大竹まちあそびプロジェクト」を合言葉に6人で活動しています。

このたび、和紙をテーマとしたイベントを企画したのは、和紙保存に携わる方からの「困っている」との相談でした。「何かお手伝いができないか。」それなら、私たちが得意とする「イベント」を通じて、一人でも多くの方に「和紙」を知ってもらいたい。そんな思いから「大竹和紙小市」を開催することになりました。

当日は、さまざまな分野で活躍する造形作家の方々が、和紙を取り入れた作品を制作・販売します。また、和紙を使ったワークショップも体験できます。情緒あるお寺の風情もあいまって和紙の魅力がますます引き立てられると思います。

まずは見て、楽しんで、知



ワークショップ:大竹和紙で風車をつくらう



パインコーンズの皆さん

てもらおうこと。そして生活のなかに、少しでも和紙を取り入れてもらいたいですね。そして、関心を持った方が、また違う形で携わっていく。「和紙小市」という小さな歯車が、皆さんを通じて少しずつ大きな歯車になればと願っています。

完成

- 12 乾燥させる
- 11 圧搾機で水を絞る
- 10 トロロを混ぜ、紙をすく
- 9 叩解機で粉碎する
- 8 アク抜き、漂白する
- 7 大釜で煮る